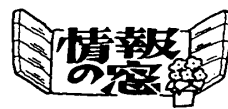


1995年度秋季研究発表会ルポ

渡辺 隆裕 (東京工業大学)



1. はじめに

「今回の秋の学会どこだっけ?」「大宮だっけさ」

大学に入学して以来12年間住み続けた大田区を離れ、板橋に引っ越した私にとっては今回の学会は「板橋に引っ越してラッキー」と思わせる大宮での開催。大宮は思ったより都心から近く、池袋から埼京線の快速で28分…。と思ったら、実際の会場はそこからさらにニューシャトルという新交通システムに乗らなければならなかったのです。

申し遅れましたが、私は今回の1995年度秋季研究発表会のルポを担当することになりました東京工業大学の渡辺と申します。大会の前日に同じ会場で行なわれたDEAシンポジウムに参加していたところ、大会副委員長である大山先生が汗だくになりながら走ってきて「明日の大会のルポ書いてよ」と頼まれ、その必死の形相に断りきれず「わかりました」と返事をした次第です。大役を仰せつかり力不足ではありますが、精いっぱい頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。(結婚式の司会の挨拶のようになってしまった。)

1995年度秋季研究発表会は埼玉大学の刀根先生が実行委員長となり、10月16日(月)・17日(火)の両日、埼玉県県民活動総合センターで行なわれました。参加者は384名で総発表件数は124件(うち招待講演3件、特別セッション18件)でした。

ニューシャトルは東北新幹線の両線路脇を走る新交通システムで、隣りを新幹線が追いついてゆきます。これに乗って終着駅の1つ手前の「羽貫駅」で降り、送迎バスで5分程度で今回の会場「埼玉県県民活動総合センター」に到着しました。本来は羽貫駅からの送迎バスは1時間に2本程度なのですが、主催者側が用意してくれていたのか、随時マイクロバスが運行しており、スムーズに会場へとたどり着くことができました。

県民活動総合センターは田んぼの真ん中に突如そびえ立つ近代的な建物。建物の真ん中は大きな吹き抜けになっており、その両端に会議室や図書室・展示場・ビデオセンターのような部屋があり、外にはグラウンドとテニスコートなどがあるすばらしい施設。新しい建



受付風景

物で中はとてもきれい。ついでに受付のお姉さんもきれい…(失礼)。ここまで来たかいたがあったというものだ。(何の甲斐か?)

受付を済ませると、近くでは某大学のK教授がしきりに何かを残念がっている。聞いてみると「今日、テニス大会があるそうなんだ。知ってたんだけどね、ラケットを持ってこなかったんだよ」とのこと。「今から取りに帰ろうかな…」K教授しきりに素振りのまねをする。他の人の話ではK教授はテニスはかなりの腕前らしい。「取りに帰ろうかな」…かなり迷っている様子。

今回の大会の目玉はOR学会で初めて行なわれる会長杯争奪テニス大会。開始時刻は11時。そのお話はあとにして、とりあえず1日目の発表の内容について何件かご紹介しましょう。なお私の専門のゲーム理論に若干偏った評となりますが、なにぶんご容赦を。

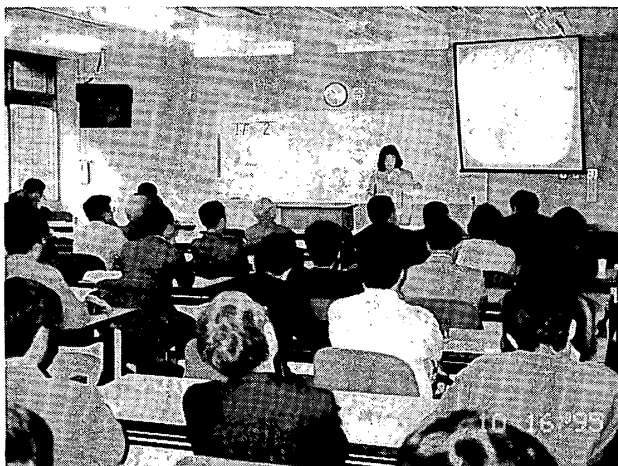
2. 1日目の発表

通常の発表会はA会場からF会場までの6会場で行なわれた。これらの会場はすべて3Fの一角に固まっております。階段を昇降することなく会場の移動ができて大変便利でした。BからFまでの会場がほぼ同じ大きさなのに対して、A会場は少し大きい会場で(前日にはDEAシンポジウムが行なわれた)特別セッションがここで行なわれました。ここでの朝1番目のセッションは「電力のOR」です。中でも北海道大学の長谷川氏を中心とするグループは「電線着雪予測システムの開

発について」という発表で、「着雪」(ワープロで変換されない!)という地域固有の問題は素晴らしいと思いませんか? 現在このような地域の問題に根ざしたORについての発表は少なく、今後増えればいいなと思いました。F会場の「組合せ最適化」では住商情報システムの栗田氏をはじめとするグループが重複巡回セールスマン問題に対しわかりやすいヒューリスティックの提案。まだまだ改良の余地があるということで、参加者からさまざまな意見が出され、この分野特有の熱気ある雰囲気会場に出ている話。私は自分の専門であるD会場の「ゲーム理論」に参加。ここでは東北大の大西氏がNashの交渉解を2社の保険会社のリスク分担問題に適用しており、なかなか応用の出ないゲーム論のセッションの中で光っていたように思います。

朝2番目のセッションでは、私はD会場の「ゲーム理論」の座長をつとめさせていただきました。ここでは名古屋商科大学の坂口実氏が、利得と自分が用いる混合戦略の確率分布のエントロピーを加えたものを双方のプレイヤーが最小にするモデルが発表され、均衡点が1つになるという結果が示されました。モデルに対する解釈や応用はなかったのですが、数学的に面白い結果だと思いました。同じ時間にはC会場の「地域・政策」で都市計画関連の発表がいくつかなされました。

筑波大学の三浦氏は鉄道が敷設された時の領域の平均移動時間を導出するという発表で、開発に伴う便益測定の一つの重要な要因となる移動時間に対する理論的な算出アプローチについて、また同会場で行われた東京大学の藤田氏の地球環境問題における「国際協力の効果の検証」は多国間の汚染物質排出に対するゲーム理論による分析で、行けずに残念でしたが参加



発表風景



刀根実行委員長挨拶

した方からは面白い発表だとうかがいました。

お昼休みの後には全体会場のS会場で学生論文賞の授賞式と特別講演が行なわれました。S会場のみ他の会場とは違い1Fの大きな会場です。演壇を中心に扇状に観客席が取り囲み、照明が劇場的な雰囲気演者を照らすムードのある会場。NECの特別顧問の水野幸男氏の「マルチメディアとこれからの経営」が1日目の特別講演です。「情報は金なり、知識は力なりだ」という言葉で始まるこの講演では、マルチメディアを使っていかに個の力を集団の力に変えてゆくか、またこれからのオフィスはどのように変わってゆくか、ということが語られました。ただ話だけではなく、在宅勤務の可能性やTV会議システムの応用等に対するNECでの現状をビデオを使って説明され、説得力のあるものとなりました。後半はこれからの経営活動・戦略はこれにつれてどう変わるべきかがテーマでIT技術の推進が必要であることなどが強調されました。

1日目の午後の最初のセッションでは、S会場でLanchester賞の受賞記念講演が筑波大学の吉瀬氏によって行なわれました。内容はLanchester賞受賞に至るまでの内点法研究の歴史的な流れと、これに対する小島軍団(今野浩氏の著書より引用!)の研究の経緯についてでした。吉瀬さんはいつもどおりの普段着で講演台に立たれ(ジーンズにポーチを付けていたように思う)、そのスタイルどおり分かりやすい普段着の講演でした。(私の卒論は彼らの指導のもとで内点法のプログラムを作り単体法と比較することだったので、その当時のことも思い浮かべながら懐かしく聞いておりました。)

同時刻には今回のテーマである「ORの実施」をテーマにした特別セッションがA会場で行なわれました。ここでは大変興味深い発表が3件行なわれたのですが、特に「フィールド・サイエンスとしてのOR」という徳山氏のテーマには強く惹かれました。ORの中で理論と実践を結びつける必要性はよく解かれるが具体的な方法論はなかなかなく、私はかねがね文化人類学や社会学にもとづくフィールドワークの手法等がもっと研究されるべきだと思っていたので、この発表はぜひ聞きたかったのですが、先に述べたLanchester記念講演と重なってしまい聞くことはできませんでした。大会プログラムはよく組まれていましたが、唯一この招待講演とORの実施の特別セッションを一緒にしたことは残念に思いました。

1日目の最終セッションでは、私は「地域・政策」のセッションでの発表でした。セッションが終わったのちに、何人かの方々に個別に質問に来ていただき、20分程度ディスカッションをしました。「発表して終わり」ではなく発表時間外に他の研究者と討論できることは大会に来てよかったと思える瞬間で、「発表者冥利に尽きる」「研究者をやってよかった」と思える一瞬でしょう！（そこまで言うか？）討論の興奮のまま懇親会に突入し、おいしいビールをいただいたのですが、その話は、またまたあとで。

3. テニス大会と懇親会

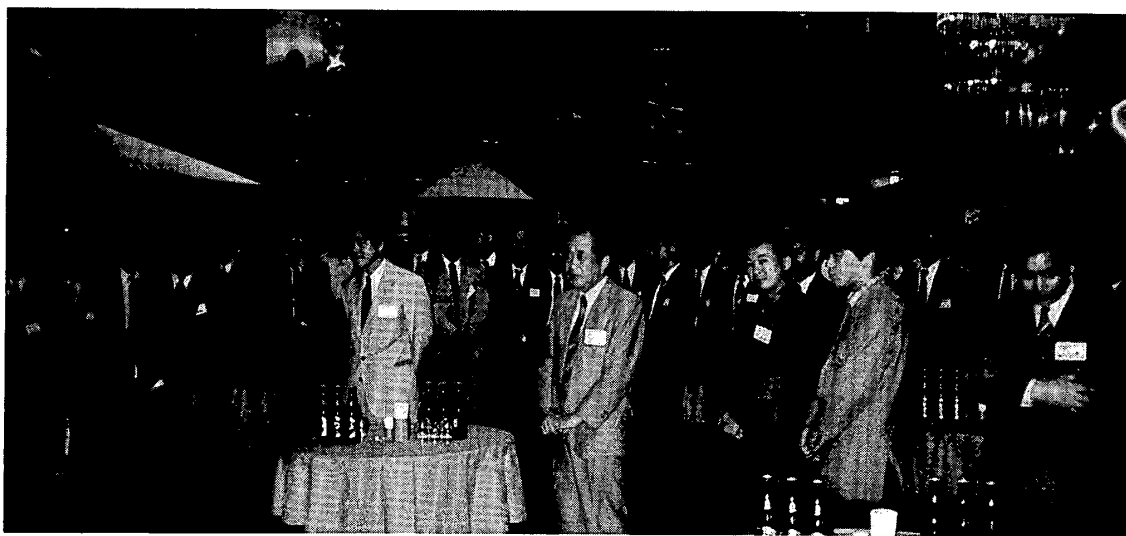
さて1日目の目玉は何と言ってもOR学会「会長杯」テニス大会でしょう。11時の開始時刻には一瞬雨がぱらつき、開催に大変苦勞をなされた大会副委員長の大山先生はこのとき涙目になっていたそうです（H氏



テニス大会優勝

談)。幸い雨は全然降らず好天のもと大会は行なわれました。試合はダブルス6組が参加し、抽選により各チーム2試合ずつ対戦しました。私は1時ごろ観戦に行きましたが、相当レベルの高い試合が行なわれていました。（本当です。初心者は全然参加できません。）試合が終わったあとのH氏に感想を聞いたところ「今晚の懇親会のビールが楽しみだよ！」と嬉しそうに語っていました。結果は加藤直樹氏（神戸商大）・若林信夫氏（小樽商大）のペアが唯一の2試合全勝チームとなり優勝。懇親会では村井会長からの寄贈である豪華なクリスタルカップが優勝者に手渡されました。銀座ジュエリーマキにありそうな素晴らしいカップでしたが、懇親会では、「のりにのった」観客（先ほどのH氏です）から無謀にもカップにビールがつかれ、優勝者は豪快にビールを飲み干していました。（帰りに加藤先生に会いました。顔が真っ赤でしたが上機嫌でした）

懇親会は1日目の午後、埼玉県県民活動総合センター1Fのレストランで行なわれ、大会委員長の刀根先生の挨拶からはじまり、梅沢副会長はじめ多くの



懇親会風景



特別講演有馬理事長

方々の楽しいお話をいただき、最後に次期大会委員長の小樽商大の若林先生（テニスの優勝者です）からの来年の開催委員の紹介で終わりました。参加者は102名と大盛況。先ほどのテニス大会の授賞式を中心に全く飽きのない楽しい2時間でした。

4. 2日目の発表

2日目の発表の朝1番目のセッションの特別セッションでは今大会の開催副委員長である大山先生自らが家庭ゴミ処理システムの最適化についての発表を行っていました。先ごろ参加した東北大学のRAMPでも開催委員長が発表していましたし、最近はこのスタイルが流行なのでしょう...と思ったら共同研究者で発表者だった方が都合のため来られなくなってのピンチヒッターとか。E会場のグラフ・ネットワークでは、NTT通信網研究所の伊藤氏が、グラフでの問題を解くときに実際のグラフを入力として与える代わりに入力として補グラフを与えた場合にどの程度効率的に解けるかという研究を発表。基本的な操作である深さ優先探索、幅優先探索が線形時間で解けることを示し、補グラフ入力による効率的な解法の可能性を示唆している。（いきなり解説調になってしまいました）

朝2番目のセッションは文献賞受賞記念講演で室田氏の「組合せ最適化と凸解析」と高橋敬隆氏の「待ち行列論における基本公式—分布版リトルの公式について」が行なわれました。私は前者の方に参加しましたが、室田氏がこのような非常に難解な理論について平易にわかりやすく話すのに大変驚きました。おかげで

講演内容を完全に理解したように思えて、「完全に理解したような気になりましたよ」とある先輩に話すと「気がするだけで、実際の理論は難解だよ」と言われました。そんなことはないと家に帰って思い出してみると...そのとおりでした。

お昼休みのあとの特別講演は理化学研究所理事長の有馬氏の「日本の独創性」についての講演。一般に言われている「日本は独創性がない」という言葉を明治以降からの発明・発見に関する歴史と件数を中心に否定し、教育制度の歴史と考え方を踏まえて（読み書き・そろばんの徹底など）、日本の「工学指向・実学指向」の方向性を明らかにする講演でした。最後に博士制度を中心とする日本の基礎研究の制度への問題点を指摘していましたが、これは私も同意するところでした。このあとペーパーフェアとソフトウェアフェアが開かれました。双方ともいつもに比べ発表件数は少なかったのですが、そのぶん参加者が集中して、1件当たりの参加者は多かったような気がしましたが、どうだったでしょうか。

2日目の午後の1つ目のセッション、D会場の意思決定では、連続して行なわれた東京理科大学の加藤氏とシステム計画研究所の八巻氏の、区間AHPの考え方を利用して、グループの意思決定問題に適用したものが興味を集めていたようです。また私の参加したE会場のグラフ・ネットワークでは野々峠氏の高速道路料金を考慮した交通配分問題についての発表があり、参加者から道路ネットワークの利用者均衡についての是非が盛んに論議されていました。

最後のセッションでは私はD会場の意思決定に参加。電力中央研究所の桑畑氏は地球温暖化に伴う気候変化の電気事業への影響のディシジョンツリーの作成によるリスク評価でした。今回の発表ではこのような環境問題に対する発表もいくつか見られ、近年のこのよう



ペーパーフェア

な問題に対する関心の高さを表わしていました。また同会場での東北大学の木谷氏の発表はORの中に公正な社会的決定という観点を加えようという試みのひとつで興味深かったです。またB会場の生産計画で東芝研究開発センターの加納氏をはじめとする連続する発表は、Lagrange緩和法によるスケジューリングを現実的な問題に適用させてゆく問題で、今回のテーマ「ORの実施」の締めくくりにあふさわしい発表でした。

5. おわりに

大会を終わり振り返ってみると、私にとってはいつにも増して楽しかった大会だったように思えます。首都圏で大会を行なう場合、費用面の制約を考えると、会場を便利の良いところや遊べるところを選ぶか、それを少し犠牲にしても会場がきれいで良いところを選ぶかはトレードオフにあるのではないのでしょうか。今回は後者の面で意思決定されたと思いますが、それで良かったのではないかと私は思っています。先にも述べましたが、会場が同じ一角に固まっているのは、さまざまなセッションに興味がある私には本当に助かりました。またこの一角にいればどんな参加者が来るかがほとんどわかってしまうのも便利でした。しかし、都心に近い会場ではこのような場所を確保するのは難しかったと思います。

発表会では、多くの新しい研究を聞けるのはもちろんのこと、たくさんの方々と久しぶりに会って話ができることも楽しみのひとつです。しかし発表会でも全部の発表を聞くというのはなかなか辛いもので、そのため一部は抜け出して観光に…という方も多いのではなかったでしょうか。今回は田んぼの真ん中(?)という環境も幸いしてか、割合、多くの方が会場にいたように思いました。そのかわり、テニス大会などがあり、そちらの方で息抜きができるようになっていました。

観光ではどうしても普段の仲間と一緒に、他者との交流とはいかないでしょうか。その点、テニス大会ではいつもとは違ったメンバーと交流することができ良かったと思います。「発表会の裏でテニス？」と言う方もいるかとは思いますが、実質的にすべての発表を集中して聞くのは難しいことを考えると、このような企画を持ち、そのかわり参加者が会場周辺にいるようにするのは良いアイデアだと思います。今後もこのような企画が（開催校の負担にならない程度に）続いてくれることを望みます。

また懇親会の雰囲気も形式ばらず、活気があったのも良かったと思います。このような楽しい大会になったのも、委員長の刀根先生をはじめとする実行委員会の方々のご苦勞があったからだだと思います。本当に楽しい学会をありがとうございました。

最後に1つ非常に個人的な質問、日本の交通機関はほとんどが左側通行だと思いますが、会場へのニューシャトルは羽貫駅ですれ違うときは右側通行で大変奇異に感じられました。この理由がわかる方いらっしゃったら私の方（下記メールアドレス）まで教えてください。今も気になっているのです。（大宮から途中駅までは複線で新幹線の両側を左側通行で走ります。途中駅から単線になり、駅ですれ違うときのみ右側通行で複線となるのです）

通常の大会のルポは客観的な立場に立った報告が多かったのですが、今回は私個人の目から見るという立場で主観的に書いてみました。ご意見等あったら下記までお聞かせください。またルポ作成にあたり、東京理科大学の杉山氏と東京工業大学の塩浦氏に多大な協力をいただきました。ありがとうございました。もちろん文章の誤り・表現等の責任は私にあります。

（東京工業大学 渡辺隆裕）

twatanab@soc.titech.ac.jp